

議長定例記者会見 会見録

日時：平成26年9月12日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて
- 第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

2 質疑項目

- 三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて
- 全国学力テストの結果について
- 政務活動費について

1 発表事項

(議長)おはようございます。久しぶりに素晴らしい天候でございまして、毎日、異常気象で、北海道の大雨ですね。テレビを見ておりますと、今まで記憶にないような大雨の水害、大変なことになっていることが分かりました。お見舞いを申し上げるところでございます。また、広島についても、大きな土砂災害で多くの方が亡くなられていることについては、心からのご冥福並びにお見舞いを申し上げるところでございます。幸い三重県につきましては、今回は大事に至らなくて、ほっとしているのが今の私の心情でございます。

発表事項は2点ございますが、その前に一言申し上げたいのですが、先月、8月20日に開催しました「みえ高校生県議会」につきましては、県内の高校生26名のご参加をいただき、無事終了することができました。報道機関の皆様には、事前の情報発信や当日の取材についてご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

○三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて

(議長) それでは、発表事項に入ります。

まず始めに、三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて、発表させていただきます。

三重県議会インターンシップ実習生については、6月の定例記者会見において募集を行っている旨を発表させていただきましたが、この度、実習期間や受入式などについて決定いたしましたので、お知らせいたします。お手元の資料をご覧ください。

実習期間は、今月16日から30日までの2週間です。実習内容といたしま

しては、「当県議会の取組や業務内容の説明」、「委員会や本会議の傍聴」、「実習生による地方議会改革の提案、発表」などを予定しています。

なお、実習生の受入式は、9月16日、火曜日、9時半から、議事堂3階の議長応接室で行います。

インターンシップ実習生には、今回の実習を通して、地方議会への理解を深めるとともに、今後のキャリア形成につなげていただければと考えております。

○第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(議長) 2点目でございますが、第1回三重県議会「議員勉強会」の開催についてでございます。発表させていただきます。

去る9月2日に開催されました代表者会議で、第1回議員勉強会の開催内容などを協議いただき、その概要がまとまりましたので、ご説明させていただきます。

三重県政を取り巻く環境は非常に厳しく、様々な課題等が数多くあることから、三重県議会として、県民の負託にこたえていくためには、今後も引き続き、各議員が日常の調査及び研修活動を通じて、自らの資質の向上に努めることが必要です。また、これらの諸課題を解決していくためには、議員間における共通認識の醸成と更なる理解の向上にも努めていくことが重要であります。

このため、県政を取り巻く諸課題等の中から、特に知識の取得と議員間の知識の共有化を図っていくことが必要と思われるテーマを選定したうえで、専門的知識を有する外部有識者等を招いた議員勉強会を開催していくこととしたものです。

第1回目となる「議員勉強会」については、皆様のお手元に配付しました資料のとおりであります。10月17日、金曜日、午後1時30分から、全員協議会室にて開催する予定であります。

地方財政の状況が厳しさを増し、財政の透明性を高めて県民に対する説明責任を果たすことが重要となるなか、分かりやすい財務情報の開示や、資産・債務管理や予算編成、行政評価等での活用によるマネジメントの強化、さらに財政の効率化・適正化の推進を図るため、新しい地方公会計制度の整備が進められています。そこで今回の勉強会では、こうした制度改革についての理解を深めるため、講師に関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の石原俊彦教授をお招きし、「地方公会計改革と議会の役割（仮題）」をテーマにご講演いただくことといたしました。

石原教授は、総務省の「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」のほか、第30次地方制度調査会や地方行財政検討会議の構成員を歴任され、地方公会計はもとより、自治体の行財政に大変精通されておられます。なお、先生の講演後、議員との意見交換も予定をいたしております。

ぜひ今回の勉強会を通じ、地方公会計制度に関する知識の取得はもちろん、議員としての資質向上にもつなげていきたいと考えております。

なお、第2回目のテーマについては、「人口減少社会における地方創生(仮称)」に決まっておりますので、よろしく願いいたします。

2 質疑応答

○三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて

(質問) インターンシップの件ですが、これは全体的な応募の人数はどれほどあったのでしょうか。

(議長) ずっと振り返ってみますと、2名以上の応募者でずっと来ていたわけですが、今回については実は1名なんですね。本当はいろんな趣旨から考えますと、もう少し多くの方々からの応募があるものと思っておりましたが、今回については1名のみでございました。私自身もちょっと残念に思っておりますけれども、もう少しと思ったわけですが、このような結果になりましたので、ひとつよろしく願いいたします。

(質問) ちなみに積極的な応募がない要因として、どのようなことが考えられるか、あくまで私見で結構です。

(議長) 本当は若い方々が地方議会に関心を持っていただくことが、非常に大事なことと思っておりますので、今後はもう少し今回のことを検証しながら、次にどうやって募集をかけていくか、これも考えていくところかなとは思っています。事務局の方で分かれば状況だけでも。

(事務局) 過去に2名ずつ募集をさせていただいて、2名から3名くらいの応募の方がございました。本年度についても、実は2名の方に手を挙げていただいたのですが、そのうちの1名の方が途中で取り下げをされたので、結局1名になったという、そういう経緯がございます。

○全国学力テストの結果について

(質問) 学力テストで三重県の場合はみんな平均以下でしたけれども、議長の所見なり、教育委員会への注文なり、ありましたらお願いします。

(議長) 非常に私といたしましては残念というしか表現しようがないんですが、なんとか三重県の学力向上について全県民的な取り組みをとということで、学力向上県民運動推進会議立ち上げているわけですので、もう少し私は今

回はある程度の結果を出せて、向上してきたのではないかと、実は思っております。残念ながら、皆さんもご承知のとおりの結果でございます。三重県としては、さらに一層、あらゆる角度からもう一度見直し、検討し、学力向上については取り組む必要があるのではなかろうかと、このように私自身は思っております。

(質問) ここが足りないとか、何か足りないとか、そういう点のご指摘はありますか。

(議長) 実は教育委員会さんにもいろいろとお聞きをしたんですが、それなりに努力はしてきたということの説明があったんですが、やっぱり説明だけではですね、やっぱり結果というのが一番大事だろうと思うんですね。確かに一生懸命に取り組んでいただいていることは理解できるんですが、結果が出せなければその努力も水泡に帰してしまう、ということではなかろうかと思っておりますので、議会としてもこの件については、これからもういっぺん取り組む必要があるのではなかろうかというふうに思っております。おそらく委員会等で、この問題はきちっと議論されていくと思います。

○政務活動費について

(質問) 政務活動費なんですけれども、例の号泣県議の方がいらっしゃいましたよね、兵庫県議会で。あれでいろいろ改めて注目を集めて、その兵庫県議会もその後、全会派で不適切な支出が見つかったりとか、親族に給料を支払っていたりとか、そういう話があっているいろいろ在り方を見直しているようなんですけれども、改めて三重県議会としてですね、今削減しているのは承知してはいますけど、改めて今、政務活動費の在り方を見直す考えというのは、三重県議会としては今あるんでしょうか。

(議長) これにつきましては、もう今更申し上げるまでもないんですが、情報公開についても各都道府県に先駆けていろいろなことをやってまいりまして、私はそれなりに三重県議会としては取り組みについてはかなり進んだ位置にあるというふうに思っておりますので、特に今ということは考えないわけでございますが、条例の規定とか、あるいはガイドラインがございますので、それに基づいてきちっと議員は議員なりにですね、適正に執行、運用されていけばというふうに思っております。今後、会派や議員から何らかの話があれば、ご意見を伺いながら対応していきたいと考えております。現時点では、今のところ特段の対応は考えておりません。

(質問)今のところ会派から意見が出ればそれを集めたいということだと思うんですけど、特段現状で問題はないであろうというお考えかと思うんですが、鉄道とかの利用に関しては領収書は必要ありませんし、基本的に宿泊費も1万6,500円ですか、打ち切り支給だと思うんですけども、そういったことについて細かく言えばですね、もう少し抑えられるんじゃないかとかですね、領収書を全部出せばいいじゃないかというのが多分一般的な考えというか、私も民間企業に勤めていますけど、それが普通なんじゃないかなという気もするんですけど、領収証を必ず添付して出してっていう形で、後々精算を受けるというのが普通の企業とかですね、よくある経費の精算になるかと思うんですけども、そのあたりについて、いかがお考えですか。

(議長)あくまでもガイドラインというのが皆さんで決めてあるわけでございますので、それを今ここでですね、どうだっていうことを私の口から申し上げることは、ちょっと差し控えたいと思うんです。今も申し上げましたように、そういった点でですね、議員の皆さんから、これはというようなご意見があれば、議会としても検討していかなきゃならないとは思っておりますが、今この時点では私の口からはちょっとその件は差し控えさせていただきます。

(以 上) 10時48分 終了